

不安に寄り添う政治のあり方勉強会

# 地域が有する「不安」の実態

## ～最末端集落の実態と地域の「しくみ」を中心に～

島根大学教育学部

作 野 広 和

I はじめに ～教育・研究の概要～

II 限界集落・無住化集落の実態とその対応

III コミュニティの崩壊と住民自治組織の硬直化

IV おわりに ～これからの政治に求めること～

# プロフィール

## ■ 作野 広和(さくの ひろかず)



### <経 歴>

1968 年5月、島根県松江市生まれ。

広島大学大学院文学研究科修了、同大助手、島根大学講師、准教授を経て、2014 年4月より教授。この間、放送大学、福岡教育大学、愛媛大学、広島大学大学院、美作大学、京都大学大学院等において非常勤講師を務める。インド、スリランカ、中国、韓国等における農村調査に参画。2016 年3月に在英日本大使館の招聘により、英エジンバラ大学とオックスフォード大学にて講演。

島根大学教育学部においては共生社会教育専攻に所属し、地理学を担当。現在、専攻主任。

専門は農業・農村地理学、過疎・中山間地域論、GIS(地理情報システム)。

### <委員・役職・社会的な活動>

#### ○学会・研究活動

・日本地理学会会員、人文地理学会代議員、経済地理学会評議員、地理科学学会評議員、地域地理科学会編集委員、中四国都市学会理事、島根地理学会幹事、東北地理学会会員、全国社会科教育学会会員等

#### ○行政委員

- ・総務省「暮らしを支える地域運営組織に関する調査研究会」委員(2014 年度～)
- ・総務省「これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会」構成員(2016 年度・2017 年度)
- ・総務省「過疎問題懇談会」構成員(2017 年度～) ・国土審議会特別委員(2017 年度)
- ・島根県中山間地域研究センター客員研究員 ・兵庫県豊岡市地域コミュニティアドバイザー
- ・島根県吉賀町まちづくりアドバイザー ・島根県立矢上高等学校魅力化推進本部会議議長 等

### <主な地域づくり活動>

- 2003 年より雲南合併協議会「コミュニティ・住民自治プロジェクト」にアドバイザーとして参画し、地域運営組織の原点である「地域自主組織」の構築に関わる。
- 2005 年より兵庫県佐用町金子集落の活動に関わり、「矢原山ホタルむら」の開村に導く。
- 2006 年より兵庫県佐用町江川地区の地域づくりに関わり、現在は佐用町地域づくりアドバイザー。  
2018 年度より、佐用町地域づくり協議会(13 地区)のテコ入れに関わる。
- 2009 年より江津市松平(まつひら)地区に研究室分室「松平ラボ」を設置。  
2012 年度より、江津市にて地域コミュニティ組織検討委員会委員長として地域運営組織の構築に着手。
- 2009 年より国道 54 号線の持続的活用を考える飯南の会座長としてアクションプランをまとめる。2013 年に国道 54 号線活性化アクションプラン推進協議会会長に就任し、飯南町の地域づくりに奔走。
- 2012 年より吉賀町柿木村地域振興協議会と柿木村地域自治区のあり方について検討開始。  
2015 年度に「柿木村手づくり自治区」を設立。現在、同町蔵木地区において手づくり自治区設立検討中。
- 2013 年より豊岡市新しい地域コミュニティのあり方検討委員会委員長に就任。  
2017 年4月1日に豊岡市全 29 地区において、公民館を廃止し、新しい地域コミュニティ組織が発足。  
2018 年度より、豊岡市コミュニティビジョン策定委員会委員長として、ビジョン策定に関わる。
- 2014 年7月 島根県邑南町に研究室分室「邑南ラボ」を開設。地域協創人材育成プロジェクト実施中。
- 2014 年10月 矢上高校将来ビジョン策定委員会委員長に就任。2015 年3月に「矢上高校将来ビジョン」を策定し、同年4月に矢上高校魅力化推進本部会議議長に就任。
- 2015 年6月に奥出雲町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会会長に就任。奥出雲全体の方針を検討。
- 2016 年4月に奥出雲町に「奥出雲ラボ」を設置。たたら製鉄・そろばん産業等のプロジェクトを展開中。
- 2017 年6月より出雲市佐田町における「小さな拠点」づくり事業に関わるが、苦戦中。
- 2018 年7月に飯南町に「飯南ラボ」を設置。飯南町内の魅力発掘と地域づくりについて研究中。
- 2018 年5月より、鳥取県日野高校魅力向上アドバイザーに就任。同校魅力向上ビジョンを策定。
- 2018 年9月より、益田市学校整備計画策定審議会会長に就任。益田市教育委員会とともに、「小学校を統合させない」計画を答申。
- 2019 年10月に佐田町に「さだラボ」を設置。出雲市旧佐田町全世帯調査を実施完了。

# 地域を捉え、地域で学ぶ研究室

作野広和（島根大学教育学部） 島根県内活動拠点

1

## 小規模・高齢集落と向き合う「松平ラボ」

2009 年 7 月に、江津市松平（まつひら）地区に研究室の分室「松平ラボ」を開設しました。地域づくりへの参画をモットーに地域住民と協働の活動を展開しています。松平地区の皆様を支えられ、多くの人材を育てることができました。



2

## 政策一体型の研究室分室「邑南ラボ」

2014 年 7 月に、邑南町役場の一室に「邑南ラボ」を開設しました。役場庁舎内のラボとして、邑南町の政策とタイアップした活動を行っています。とりわけ、島根県立矢上高等学校については、魅力化推進本部会議議長として関わっています。



3

## たたら製鉄と景観研究の拠点「奥出雲ラボ」

2014 年 3 月に、「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観」が中国地方初の国重要文化的景観に指定されました。たたら製鉄は中国山地の多くの集落の成立と存続に深く関わっています。奥出雲町文化的景観調査検討委員会委員として関わっています。



4

## 人でつなげる国道 54 号線「飯南ラボ」

自動車専用道路である松江道完成後、国道 54 号線のあり方について検討しています。「人でつなげる 54 号線」をキャッチフレーズに、町内の人や組織の連帯を模索中。国道 54 号線活性化アクションプラン推進協議会会長として関わっています。



5

## 地域維持を目指した行動拠点「さだラボ」

出雲市佐田町では、平成の合併以前から地域運営組織を立ち上げ、住民が一丸となって地域維持活動が行われてきました。また、中間支援組織である NPO 法人スサノオの風も組織されています。佐田町では、地域運営組織や NPO 法人とタイアップしながら、地域維持のあり方について検討しています。

（「さだラボ」は 2019 年度中を目途として設立準備中です）



## 2019年度 研究ラインナップ

～地域課題の解決を真正面から捉えます～

### Gilbert Kalimasangu(RS)

Revitalizing of Japanese Rural Areas  
by Involving the Youth

### 立花祐樹(B4)

出雲市佐田町におけるUターンの実態  
と若者世代の動向

### 野宗秋花(B4):佐用町共同研究

佐用町における集落の実態と地域運営  
組織の再構築に関する研究

### 本田亮太(B4):飯南町共同研究

飯南町における世帯継承と集落維持に  
関する地理的研究

### 作野広和(P):豊岡市共同研究

豊岡市における地域コミュニティの構造と地域  
マネジメントの推進方策に関する調査研究

### 地理学研究室の概要

専任教員である作野広和教授の下、2年生3名、3年生3名、4年生3名、国費留学生(マラウイ)1名の合計10名が学んでいる。現在、島根県江津市松平地区、邑南町役場、奥出雲町多根自然博物館、飯南町ふるさと回帰館に研究室の分室であるサテライトラボラトリーを設置し、地域直結で研究を行っている。



### 研究の推進方法

研究費は、大学運営資金、科学研究費補助金その他、兵庫県豊岡市・佐用町、島根県飯南町・邑南町との共同研究などから得られている。

研究の推進は、担当教員自身が行う研究の他、関連する内容を学生が担当し、共同で行っている。研究成果は、各地域の振興施策や地域づくり等に活用されている。

中山間地域研究・地域づくりのエキスパート

島根大学教育学部地理学研究室 教授 作野広和

